

事業名：瑞浪駅・釜戸駅二次交通実証事業（実施主体名）瑞浪市観光協会

事業の概要

中山道（大湫宿・細久手宿）や“きなあつ瑞浪”など車でしか行けない観光スポットへのアクセスについて、「瑞浪駅」「釜戸駅」等を起点とした区域運航車両を活用する二次交通の実証実験を行うことで、観光客の二次交通に対するニーズを把握する。

連携体制

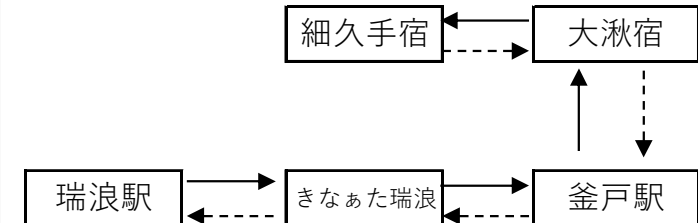
- ・瑞浪市観光協会：事業の進行管理
- ・平和コーポレーション（株）：車両運行

※事業の内容が分かるイメージ図、写真等を添付してください。

活用する資源

- ・中山道（大湫宿・細久手宿）
- ・きなあつ瑞浪

①車両運行（午前便実線、午後便点線）



地域・資源の課題とこれまでの取り組み

地域の課題：瑞浪駅・釜戸駅からの二次交通不足（自動車を前提とした観光）
 これまでの取組：平日運行のデマンド交通（ジャンボタクシー）
 効果：コミュニティバスの運行しない市北部に予約運行の公共交通運行ができた。
 課題：休日の運行、利用者の需要の把握

開発するコンテンツ・イベント等の内容

内容：瑞浪駅・釜戸駅からの二次交通実証実験を実施
 時期：9月中旬～11月中旬の観光シーズン
 方法：区域運行車両を利用した大湫宿・細久手宿への送客（午前2便、午後2便。週末土日の運行を想定。）

事業の特徴（新規性・独自性）

瑞浪市において、圧倒的に不足している二次交通の実証実験を行う（これまで、瑞浪市や観光協会には、「駅からのアクセスを改善してほしい」という意見が多く寄せられていたが、実証実験を行うのは初の取組である。）

事業実施により期待される効果及び将来性

- 【効果】
- ・実証実験を行うことで、観光客の二次交通に対するニーズを把握し、課題解決に向けて取り組む際のデータとすることができる。
 - ・自動車以外で瑞浪市に来訪する観光客の増加につなげることができる。
- 【将来性】
- ・観光協会が法人化した後、旅行業の登録を行うことで、二次交通を利用した旅行商品を企画し、販売することができるようになる。

主なスケジュール

- ・車両運行の実証実験（9月中旬～11月中旬）
- ・車両運行の効果分析（12月）